

2.2 市場動向

(1) 需要量推定

炭素繊維は、PAN系を中心に世界的規模で需要が拡大している。

2008年から2009年にかけてはリーマンショックの影響による世界同時不況により急激に需要の落ち込みがみられたが、2010年に入りスポーツ、一般産業、航空機など各用途の需要回復がみられた。

2009年の需要は各社の需要推定の平均値からおおよそ年間3万トン規模とみられ、今後はスポーツ用途の堅実な成長や航空機産業、風力発電などの産業の需要拡大が期待され、年率15%~18%内外の成長が見込まれる。ハイレベルの成長性が続くものとして2013年頃は4.5万トン2015年頃には5万トン近くの市場拡大が予想される。

航空機産業を中心に今後期待が持てる用途は、航空機用途でボーイング787に続きエアバスA350XWB新型機などにCFRPの需要が大幅に増加する分やスポーツ用途では従来のゴルフ、釣竿、ラケットに加えて自転車用途での拡大も見込まれる。

その他で、最も伸びが大きい用途として、圧縮天然ガス(CNG)向けの圧力容器、風力発電、電線、燃料電池、海底油田などのエネルギー関連用途、更に自動車、土木建築用途などが挙げられる。

現在、炭素繊維市場は東レ、東邦テナックス、三菱レイヨンの3社で約70%近くのシェア(PAN系のみ)を占めているが、2、3年後は炭素繊維の事業化を計画する中国内の企業が多く、実際にコマースベースで大規模な生産を行うところも見られることから、中国など海外勢との競合が激化することも予想される。

世界の需要見通しは、各社各様に情報が発表されているが、その大半はPAN系炭素繊維を中心にまとめたものが多い。炭素繊維材料の需要は、世界の地域別で相違点があるため、正確な情報は期待できないが、主要メーカーが発表している需要予測を以下に示す。

(2) メーカー各社の需要予測

航空機需要のさらなる拡大に加え、原油価格高騰による石油代替エネルギー関連用途(CNGタンク、風車など)、自動車用途での需要増、自転車用途の急拡大等により、2010年までの炭素繊維市場の年成長率は約18%となっている。

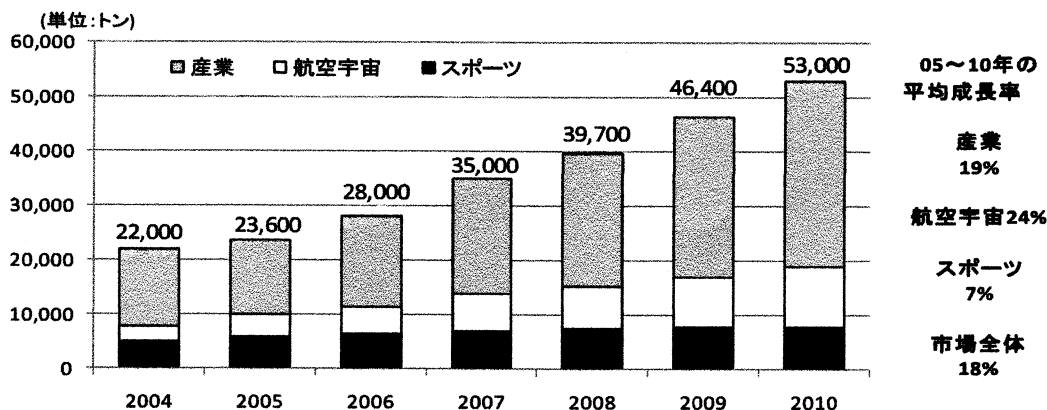


図5 東レの用途別需要予測